技術資料

ナティーボ®
フロアブル

かんきつでも、かきでも。
ナティーボ®なら、できる。

製品情報はこちら

うめでも、ももでも

Ⓡナティーボはバイエルグループの登録商標

バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
https://cropscience.bayer.jp/
お客様相談室 0120-575-078
9:00～12:00、13:00～17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

第 5 版 P-2028 23.12.IS

はじめに

ナティーボ®フロアブルは、バイエル クロップサイエンス社が開発したエルゴステロール生合成阻害剤（以下EBI剤）テブコナゾールおよびQoI阻害剤トリフロキシストロビンを有効成分とする混合殺菌剤です。
テブコナゾールは、浸達性、浸透移行性を有しています。シルバキュア®フロアブル、オンリーワン®フロアブルの有効成分でもあり、幅広い殺菌スペクトラムと優れた効果で定評を得ています。
トリフロキシストロビンも、防除効果の持続するメゾステミック作用（浸透拡散性）と浸達性を有し、フリント®フロアブル25の有効成分として果樹を中心に幅広い病害に対する優れた効果を通じ、好評を得ています。
本剤は、かんきつの黒点病、そうか病、灰色かび病および貯蔵病害、かきの炭疽病、落葉病およびうどんこ病、ももの灰星病、黒星病および炭疽病やうめの黒星病、すす斑病などの各作物の重要病害に対する高い防除効果と、収穫前日まで使用できる使いやすさが特長です。

®ナティーボ、®シルバキュア、®オンリーワン、®フリントはバイエルグループの登録商標

目　次

■はじめに……02
■ナティーボ®フロアブルの特長……03
■有効成分の名称および物理的化学的性状/安全性……04
■適用病害および使用方法（一部抜粋）……05
■各有効成分の作用機構/作用特性……06–07
■カンキツ黒点病に対する防除効果……07–09
■カンキツ炭疽病（さび果）に対する防除効果……09
■かんきつの貯蔵病害に対する防除効果……09
■カンキツそうか病（葉および果実）に対する防除効果……10
■カンキツ灰色かび病に対する防除効果……11
■かんきつ主要病害の発生消長と上手な使い方……12–13
■かき病害の発生消長と上手な使い方……14
■もも病害の発生消長と上手な使い方……15
■うめ病害の発生消長と上手な使い方/品種安全性事例……16
■混用事例……17
■新農薬実用化試験 結果概評……18–22

※本技術資料に掲載されている試験における散布回数と登録の内容の使用回数が異なる場合があります。

ナティーボ®フロアブル

ナティーボ®フロアブルの特長

1 かんきつ、かき、もも、うめの主要病害に高い防除効果

カンキツ黒点病、そうか病、灰色かび病、貯蔵病害、カキ落葉病、炭疽病、モモ灰星病、ウメ黒星病などの幅広い果樹病害に優れた防除効果を発揮します。枝病斑に潜む胞子の形成を強く阻害し、カンキツ黒点病やカキ炭疽病の拡大を許しません。
※かんきつでの無人航空機による散布が可能です。

2 優れた浸達性と浸透移行性

テブコナゾールは浸透移行性および浸達性を有し、植物体内に均等に分布し効果を発揮します。トリフロキシストロビンは高い浸達性を有し、ワックス層に速やかに吸収され、その後処理周辺部へ拡散するメゾステミック作用があります。

3 収穫直前までの防除が可能

収穫前日まで使うことができるので、収穫期の異なる混植園や収穫間際の病害防除に使用可能です。特にかんきつの後期感染型黒点病、貯蔵病害、ももの灰星病、炭疽病などの防除に最適です。

4 優れた残効性と耐雨性

カンキツ黒点病に対し20日間程度の残効性、また散布後の降雨量を基準とした場合には、積算降雨量200mm程度まで効果が持続します。

5 汚れの心配が少なく、溶けやすいフロアブル剤

6 作用機構の異なるEBI剤とQoI剤の混合剤

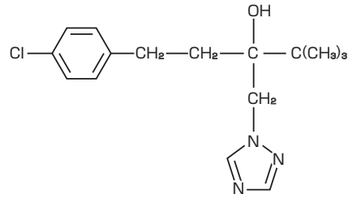
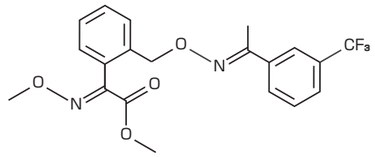
EBI剤のテブコナゾールとQoI剤のトリフロキシストロビンを有効成分とする混合殺菌剤で互いに効果を補強し、幅広い病害に効果を示します。また、耐性菌管理にも有効です。

ナティーボ® フロアブル

有効成分の名称および物理的化学的性状

商 品 名：ナティーボ®フロアブル
試 験 名：BCF-091フロアブル
種 類 名：テブコナゾール･トリフロキシストロビン水和剤
登録番号：農林水産省登録 第23111号
性　　状：類白色水和性粘稠懸濁液体

物理的化学的性状

有効成分名	テブコナゾール	トリフロキシストロビン
成分量	18.2%	8.8%
化学名	(*RS*)-1-*p*-クロロフェニル-4,4-ジメチル-3-(1*H*-1,2,4-トリアゾール-1-イルメチル)ペンタン-3-オール	メチル=(*E*)-メトキシイミノ-{(*E*)-α-[1-(α,α,α-トリフルオロ-*m*-トリル)-エチリデンアミノオキシ]-*o*-トリル}アセタート
構造式		
分子量	307.82	408.38
水溶解度	32㎎/L (20℃)	0.610㎎/L (25℃)
蒸気圧	1.7×10⁻⁶Pa(20℃)、3.9×10⁻⁶Pa(25℃)	3.4×10⁻⁶Pa(25℃)
水/オクタノール分配係数(log Pow)	3.7(20℃)	4.5(25℃)
作用機構 FRACコード	G1：ステロール生合成阻害における C14位脱メチル化酵素阻害 殺菌剤分類 3	C3：複合体IIIユビキノール酸化酵素 Qo部位阻害 殺菌剤分類 11

安全性

人畜毒性(製剤) 普通物 (毒劇物に該当しないものを指していう通称)

急 性 経 口：LD_{50}　2,500 ㎎/kg ラット(♀)　OECDガイドライン423によるLD_{50}Cut-off値
急 性 経 皮：LD_{50} > 4,000 ㎎/kg ラット (♂,♀)
皮膚刺激性：刺激性なし ウサギ(♀)
眼 刺 激 性：刺激性あり ウサギ(♀)
皮膚感作性：感作性なし モルモット(♀) ただし、トリフロキシストロビン原体に皮膚感作性あり

水産動植物への影響(製剤)

魚類急性毒性 コイ(LC_{50})：0.923㎎/L (96時間)
ミジンコ類急性遊泳阻害(EC_{50})：0.224㎎/L (48時間)
藻類生長阻害 緑藻(ErC_{50})：0.99㎎/L (72時間)

適用病害および使用方法(一部抜粋)

2023年12月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用液量(ℓ)	使用時期	使用回数*			使用方法
					本剤	テブコナゾール	トリフロキシストロビン	
かんきつ	黒点病 そうか病 灰色かび病	1,500～2,000	200～700	収穫前日まで	3回	3回	3回	散　布
	炭疽病(さび果) 貯蔵病害(緑かび病) 貯蔵病害(青かび病) 汚れ果症	1,500						
	黒点病	24	4～10					無人航空機による散布
	そうか病	32	6～14					
	灰色かび病	36	10～16					
	炭疽病(さび果)	50	7.5～22					
	貯蔵病害(緑かび病)	100	15～44					
	貯蔵病害(青かび病)	200	30～88					
	汚れ果症							
かき	落葉病 灰色かび病	2,000	200～700					散　布
	炭疽病 うどんこ病							
もも	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病							
うめ	黒星病 すす斑病 灰色かび病				2回		2回	

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。
※その他適用作物に小麦があります。

注意事項

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
●本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振って下さい。
●はくさい、だいこん、いちご、なしに対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合はかからないように注意して下さい。
●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにして下さい。
●本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
1)散布は散布機種の散布基準に従って実施して下さい。
2)散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
3)散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
●本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
●適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
●誤飲などのないよう注意して下さい。
●本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。
●散布の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン･長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼･うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
●水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
●無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意して下さい。
●使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきって下さい。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
●直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管して下さい。

ナティーボ®フロアブル

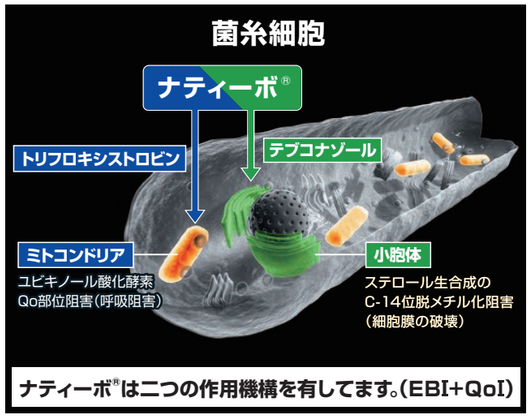
各有効成分の作用機構

テブコナゾールの作用機構

テブコナゾールは、植物病原真菌（カビ）の膜構成主要成分であるエルゴステロールの生合成を阻害し細胞膜の形成不全を起こします。このことからEBI殺菌剤（Ergosterol Biosynthesis Inhibitor）と呼ばれます。また、エルゴステロール生合成系の中間体における14位炭素の脱メチル化（Demethylation）を阻害（Inhibition）することからDMI殺菌剤（Demethylation Inhibitor）とも呼ばれます。

トリフロキシストロビンの作用機構

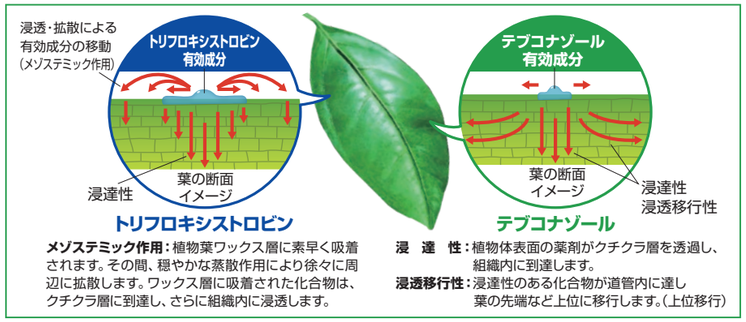
トリフロキシストロビンは、病原菌細胞内のミトコンドリア電子伝達系に作用します。作用部位は、チトクロームbとチトクロームc1間（Qoセンター）です。その結果、生命維持に必要なエネルギー（ATP）生産が極端に減少し、最終的には細胞の分裂・生長が止まり病原菌は死に至ります。



ナティーボ®は二つの作用機構を有してます。（EBI+QoI）

作用特性

各有効成分の移行性



メソステミック作用：植物葉ワックス層に素早く吸着されます。その間、穏やかな蒸散作用により徐々に周辺に拡散します。ワックス層に吸着された化合物は、クチクラ層に到達し、さらに組織内に浸透します。

浸　達　性：植物体表面の薬剤がクチクラ層を透過し、組織内に到達します。

浸透移行性：浸達性のある化合物が道管内に達し葉の先端など上位に移行します。（上位移行）

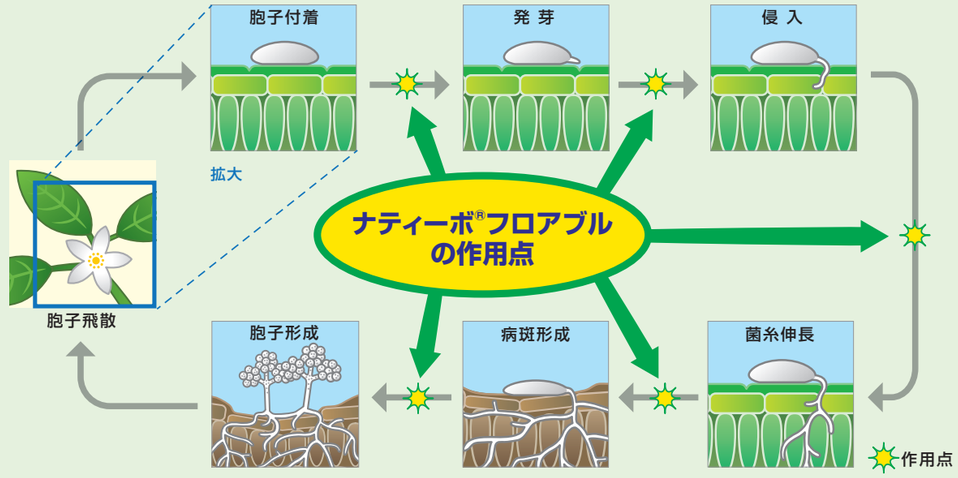
ナティーボ®フロアブルは、2つの有効成分とも移行性と浸達性を有するため、どちらの成分も植物体に広範囲に広がり、大切な作物を異なる効果で病原菌から保護します。処理された薬剤は、左図の矢印（赤）のように植物体上で移行・浸透し、植物を表面のみならず内側からも保護します。ナティーボ®フロアブルは、このように優れた物性を有する混合殺菌剤です。

各作物の病害に対する有効成分の基礎活性と本剤の防除効果

作物名	病害名	病原菌の学名	室内試験の効果		ナティーボ®フロアブルの効果
			テブコナゾール	トリフロキシストロビン	
かんきつ	そうか病	*Elsinoe fawcettii*	+	+++	+++
	灰色かび病	*Botrytis cinerea*	+++	+++	+++
	黒点病	*Diaporthe citri*	+	++	++
	小黒点病*	*Diaporthe medusaea*	+	++	(++)*
		Alternaria citri	++	++	(++)*
	炭疽病（さび果）	*Colletotrichum gloeosporioides*	++	+++	+++
	貯蔵病害（緑かび病）	*Penicillium digitatum*	++	+	++
	貯蔵病害（青かび病）	*Penicillium italicum*	+～++	+	+～++
	褐色腐敗病*	*Phytophthora citrophthora*	-	+～++	(+～++)*
かき	炭疽病	*Colletotrichum gloeosporioides*	++	+++	++
	うどんこ病	*Phyllactinia kakicola*	+++	+++	+++
	落葉病（円星）	*Mycosphaerela nawae*	+++**	+++	+++
	落葉病（角斑）	*Cercospora kaki*	++**	+++	+++
	灰色かび病	*Botrytis cinerea*	+++	+++	++
もも	灰星病	*Monilinia fructicola*	+++	++	+++
	炭疽病	*Colletotrichum gloeosporioides*	++	+++	+++
	うどんこ病	*Podosphaera pannosa*	+++	+++	+++
	黒星病	*Cladosporium carpophilum*	++～+++	+++	+++
	ホモプシス腐敗病	*Phomopsis sp.*	+++	++	++
うめ	黒星病	*Cladosporium carpophilum*	+++	++	+++
	すす斑病	*Peltaster sp.*	++～+++		+++
	灰色かび病	*Botrytis cinerea*	+++	+++	++

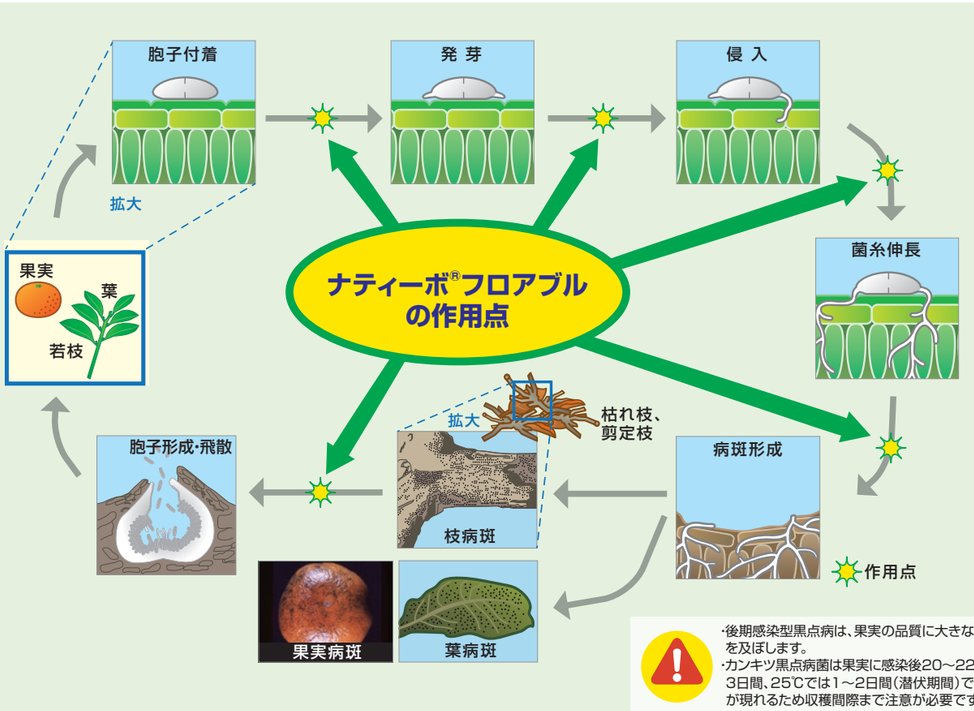
*：未登録病害　**：同属菌の試験結果から推測　+++：高い効果　++：実用的な効果　+：効果が認められる　－：実用的な効果がない

植物病原菌の生活環に対するナティーボ®フロアブルの作用点



カンキツ黒点病に対する防除効果

①カンキツ黒点病菌の生活環に対するナティーボ®フロアブルの作用点

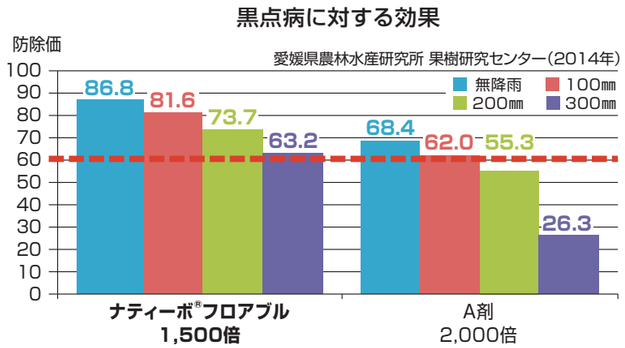


・後期感染型黒点病は、果実の品質に大きな影響を及ぼします。
・カンキツ黒点病菌は果実に感染後20～22℃で3日間、25℃では1～2日間（潜伏期間）で病徴が現れるため収穫間際まで注意が必要です。

ナティーボ®フロアブルの黒点病に対する残効は、散布後20日または積算降雨量200㎜が目安です。

黒点病と薬剤の防除効果は、積算降雨量または散布間隔に大きく依存することが知られています。
本剤の耐雨性に関する試験データを基に効果的な使用方法を検討しました。

②黒点病に対する効果と耐雨性

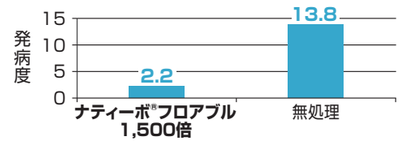
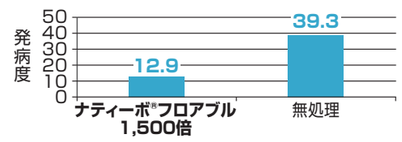
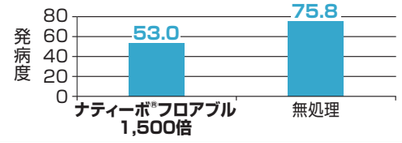


品　種：伊予柑
作　型：露地栽培
散　布：10月21日
降雨処理：10月22日
接　種：10月22日
調　査：11月15日
試験方法：果実を薬液に浸漬し一昼夜風乾し、その後人工降雨装置を用いて1時間当り25㎜の人工降雨を100-300㎜相当量処理した。降雨処理終了後風乾し、黒点病柄胞子懸濁液に浸したガーゼ(2x2cm)を1果実当り4箇所に張り付けて接種した。温度25℃、加湿条件下に24日間静置した後、程度別に発病を調査した。

ナティーボ®フロアブルは積算降雨量200㎜で防除価73.7を示し、積算降雨量300㎜でも対照A剤の積算降雨量100㎜と同等の防除価を示しました。このことから、本剤は耐雨性に優れると考えられます。

③黒点病に対する効果 / 散布間隔と積算降雨量に基づいた残効性

ナティーボ®フロアブルの全ての新農薬実用化試験結果の傾向として、散布間隔4週間または散布区間積算降雨量300㎜未満に次の散布が行われた場合、実用的な効果が得られることが確認されました。
次に、代表的な試験事例を抜粋して示します。

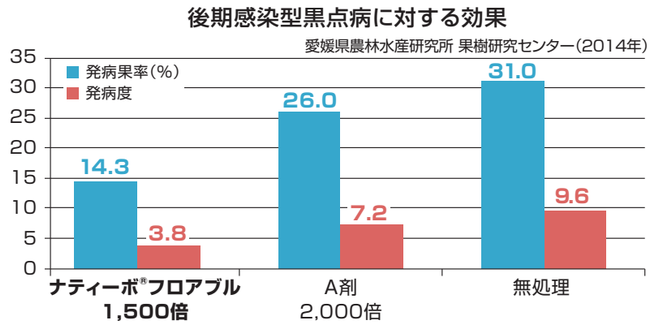
事例1	○	散布間隔* 4週間以内	
	×	区間積算降雨量** 300㎜以上	試験年：2012年 試験場所：長崎県農林技術開発センター 発生状況：中発生 散　布：6月7日、26日、7月23日、8月20日 調　査：10月16日
事例2	×	散布間隔 4週間以上	
	○	区間積算降雨量 300㎜未満	試験年：2011年 試験場所：愛媛県果樹研究センター 発生状況：多発生 散　布：5月31日、6月22日、7月22日、9月1日 調　査：10月24日
事例3	×	散布間隔 4週間以上	
	×	区間積算降雨量 300㎜以上	試験年：2011年 試験場所：(一社)和歌山県植物防疫協会 発生状況：甚発生 散　布：5月30日、6月24日、7月26日、8月29日 調　査：9月30日

＊ 散布間隔：散布と散布の間の日数を示します。　＊＊ 区間積算降雨量：散布と散布の間の積算降雨量を示します。

より安定した効果を得るために、本剤は残効日数20日、積算降雨量200㎜程度を目安にご使用下さい。

④後期感染型黒点病

ナティーボ®フロアブルは、後期感染型黒点病に高い効果を示します。

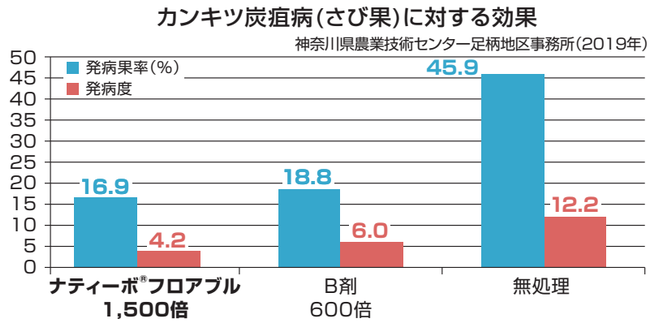


品　種：日南一号
発生状況：少発生
散　布：9月2日、16日、30日
調　査：10月16日

ナティーボ®フロアブルは、後期感染型黒点病に対し対照薬剤に優る効果を示しました。

カンキツ炭疽病(さび果)に対する防除効果

河内晩柑や湘南ゴールドなど黄色の柑橘で問題となる“さび果”に有効です。

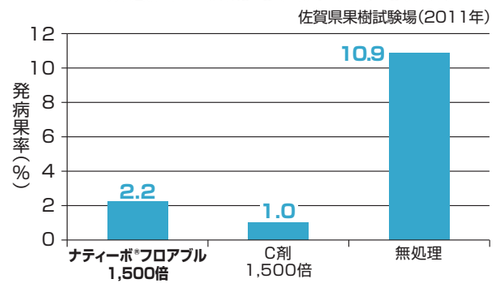


品　種：湘南ゴールド
発生状況：中発生
散　布：9月27日、10月10日(2018年)
調　査：3月19日(2019年)

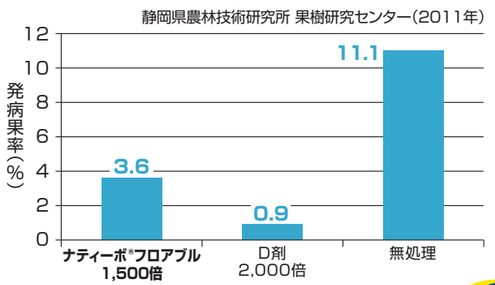
ナティーボ®フロアブルは、カンキツ炭疽病(さび果)に対して、対照薬剤と同等の高い防除効果を示しました。

かんきつの貯蔵病害に対する防除効果

貯蔵病害(緑かび病)、貯蔵病害(青かび病)に対しては、後期黒点病との同時防除が可能ですが長期残効は期待できません。貯蔵病害専用防除剤と組み合わせることで、より安定した効果が期待できます。



品　種：上野早生
発生状況：中発生
散　布：10月10日
調　査：11月26日



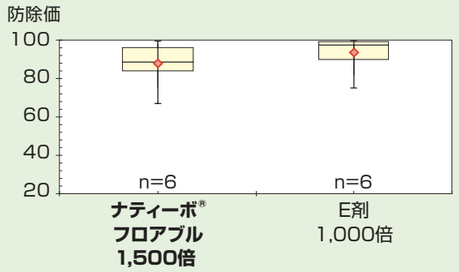
品　種：青島温州
発生状況：少発生(付傷接種)
散　布：11月28日
調　査：3月21日(2012年)

本剤の貯蔵病害に対する効果は、貯蔵病害専用剤と比較してやや劣る傾向があります。

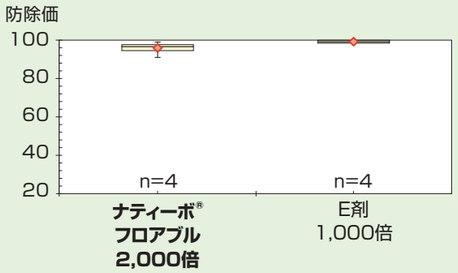
カンキツそうか病（葉および果実）に対する防除効果
（新農薬実用化試験結果まとめ）

ナティーボ®フロアブル1,500倍、2,000倍は、葉、果実のどちらのそうか病に対しても高い効果を示します。

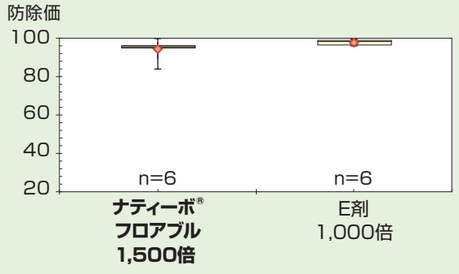
そうか病（葉）に対する効果（1,500倍）



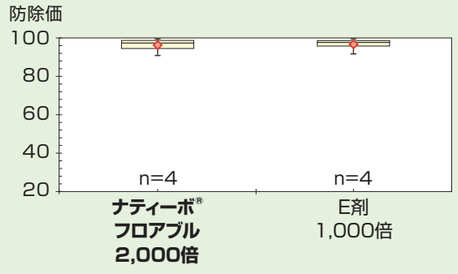
そうか病（葉）に対する効果（2,000倍）



そうか病（果実）に対する効果（1,500倍）



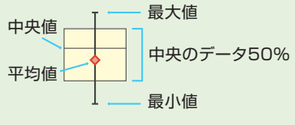
そうか病（果実）に対する効果（2,000倍）



※：nは試験例数を表す。新農薬実用化試験でのナティーボ®フロアブルの全試験結果から主な判定時期の防除価を箱ひげ図で表した。

ナティーボ®フロアブルは、そうか病に対して試験ごとの振れが少なく、効果が安定しています。

箱ひげ図の見方



箱ひげ図は、多くのデータのばらつき具合をわかりやすく表現するための統計的グラフです。

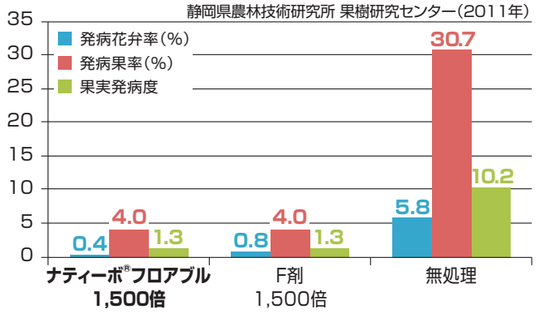
ナティーボ®フロアブル

カンキツ灰色かび病に対する防除効果

①1,500倍と2,000倍の効果について

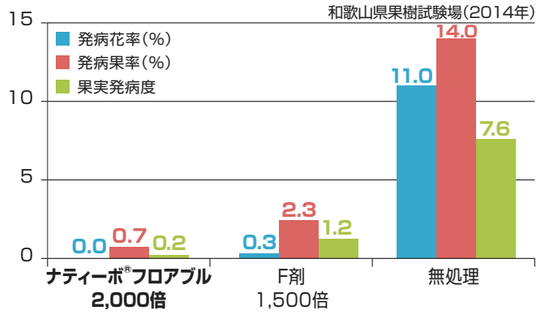
ナティーボ®フロアブルは1,500倍でも2,000倍でも安定した効果を示します。
地域の発生状況に応じて希釈倍数が選択でき、使い分け可能です。

灰色かび病に対する効果（1,500倍）



品　種：青島温州　　散　布：5月16日（落弁期）
発生状況：中発生　　調　査：5月23日（花弁）、6月7日（果実）

灰色かび病に対する効果（2,000倍）



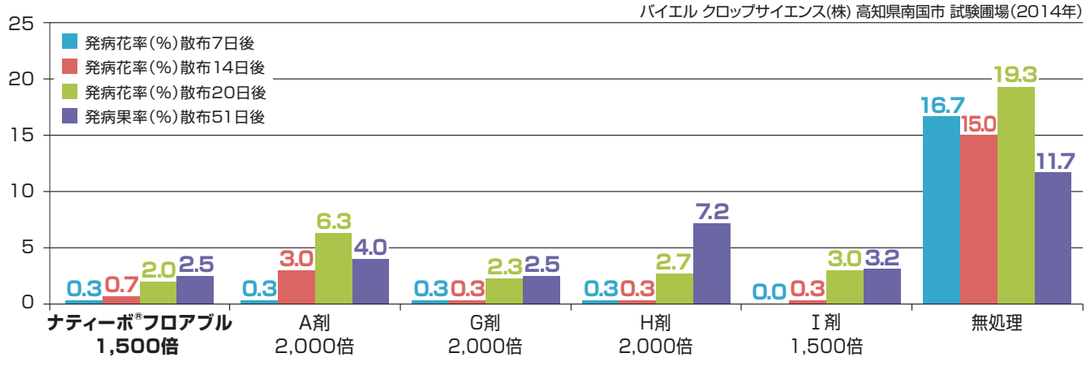
品　種：興津早生　　散　布：5月14日（開花盛期）
発生状況：中発生　　調　査：5月22日（花弁）、6月2日（果実）

ナティーボ®フロアブルの1,500倍～2,000倍は、開花期1回の散布で灰色かび病に対し優れた効果を発揮しました。どちらの試験でも、花弁の発病をしっかり抑えることで、果実の発病も低く抑えられています。

②灰色かび病 / 残効性

ナティーボ®フロアブルは、灰色かび病に対し高い効果と長い残効を示し、開花期の防除に最適です。

灰色かび病に対する効果



品　種：興津早生　　散　布：5月7日（満開～落弁期）
発生状況：中発生　　調　査：5月14日、21日、27日、6月27日

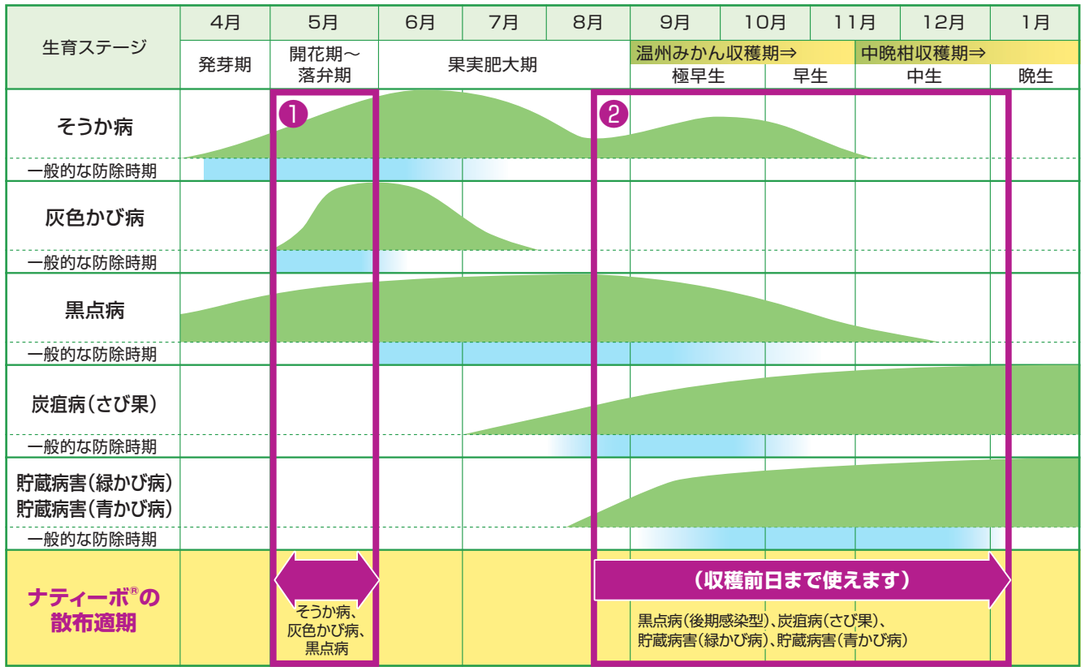
ナティーボ®フロアブルは、満開期～落弁期の1回散布で花弁の発病を長期間抑えます。その結果、幼果の発病を抑えることができます。

ナティーボ® フロアブル

かんきつ主要病害の発生消長と上手な使い方

ナティーボ®フロアブルの散布適期は、「❶開花期」と「❷収穫前日まで」の二時期です。

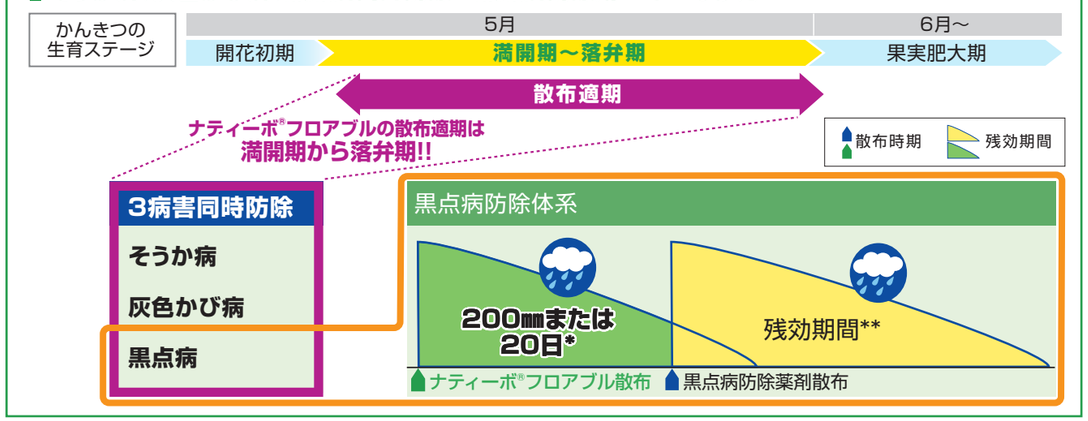
❶ 開花期の主要な病害に優れた効果を発揮します。
❷ 防除薬剤が少ない炭疽病（さび果）、後期感染型黒点病（後期黒点病）に優れた効果を発揮します。



①開花期の上手な使い方

- 満開期から落弁期に散布することで、そうか病、灰色かび病、黒点病を同時に防除できます。
- 黒点病に対し、散布後20日または積算降雨量200㎜まで効果が期待できるため、余裕を持った体系防除を組むことができます。

そうか病、灰色かび病、黒点病同時防除～黒点病防除剤へのつなげ方



* ナティーボ®フロアブルの黒点病に対する残効は、散布後20日または積算降雨量200㎜までが目安です。どちらかの基準が先に達する前に次の薬剤を散布して下さい。
** 黒点病に対する残効期間は、薬剤によって異なります。

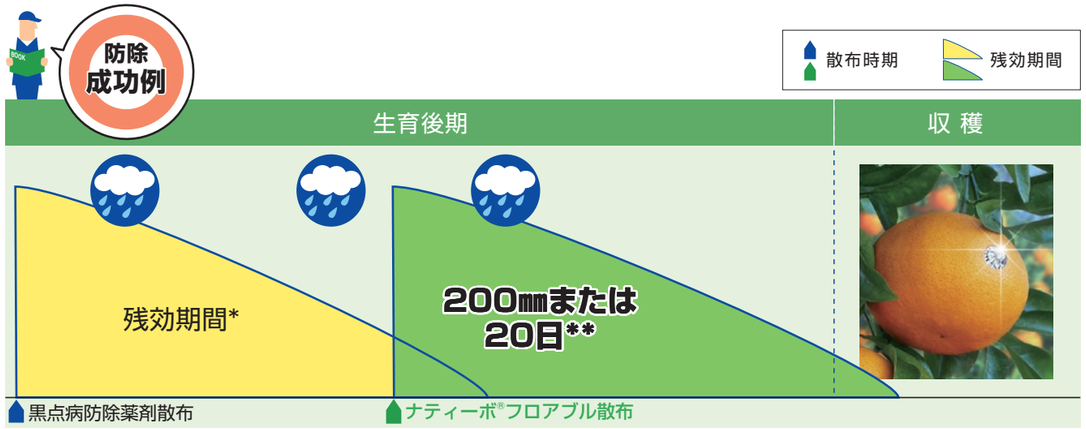
ナティーボ®フロアブルを散布することで、果実肥大期以降の黒点病防除薬剤に余裕を持ってつなげることが可能です。

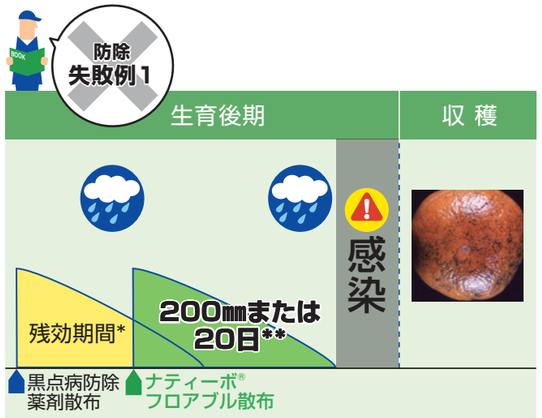
②後期感染型黒点病を対象とした上手な使い方

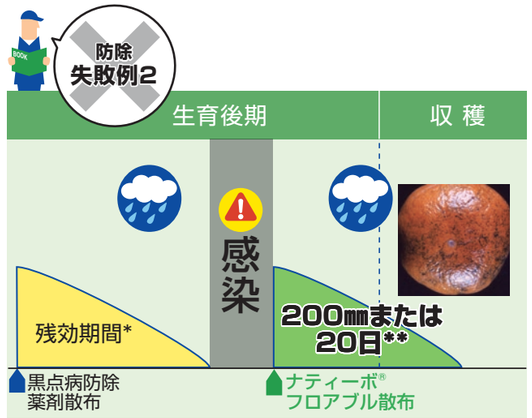
- 前回散布した黒点病防除薬剤の残効が切れる前に、ナティーボ®フロアブルを散布して下さい。
  ・収穫前日まで使えるため、収穫間際の黒点病防除が可能です。
  ・収穫時期の異なる品種の混植園でも安心して使えます。

後期感染型黒点病の防除ポイント

- 後期感染型黒点病防除は、収穫直前まで薬剤の残効が切れないように、適正な防除間隔を守ることがポイントです。
- 散布後日数または積算降雨量の基準のどちらかが先に達する前にナティーボ®フロアブルを散布して下さい。







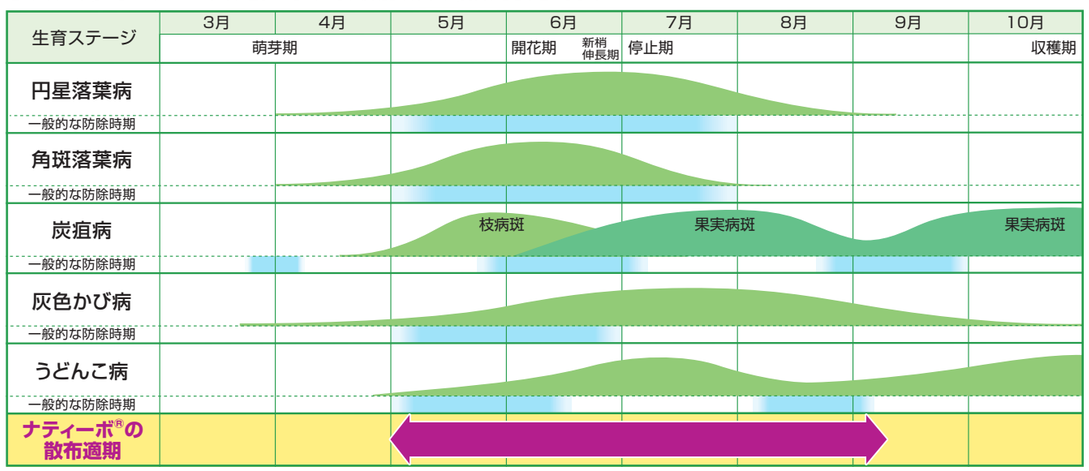
* 黒点病に対する残効期間は、薬剤によって異なります。
** ナティーボ®フロアブルの黒点病に対する残効は、散布後20日または積算降雨量200㎜までが目安です。

・後期感染型黒点病は、果実の品質に大きな影響を及ぼします。
・カンキツ黒点病菌は果実に感染後20～22℃で3日間、25℃では1～2日間（潜伏期間）で病徴が現れるため収穫間際まで注意が必要です。

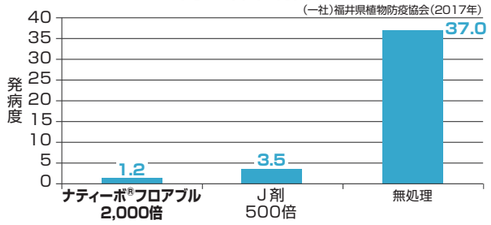
かき病害の発生消長と上手な使い方

生育期の防除も着色期の防除もナティーボ®フロアブルはしっかり発病を抑えます。

- 多くの病害を同時防除可能なので、使いやすい薬剤です。
- 落葉病は5～6月に感染します。この時期の防除は浸透移行性が高く、耐雨性に優れるナティーボ®フロアブルが最適です。
- 収穫前日まで使えるナティーボ®フロアブルは、炭疽病のような果実病害にも使いやすい薬剤です。
- 汚れの少ないフロアブル製剤なので、収穫前日の使用も安心です。

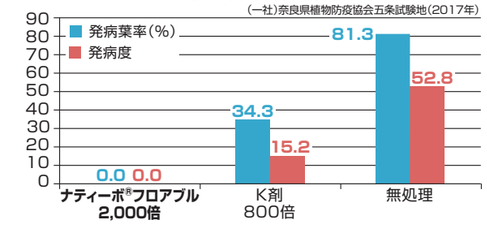


カキ円星落葉病防除効果



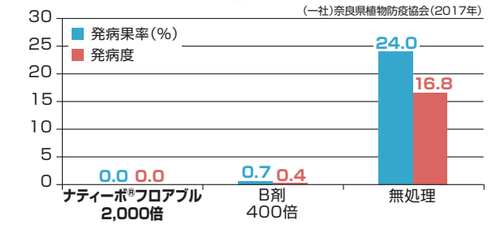
品　種：刀根早生　　散　布：5月19日、6月3日、22日、7月13日
発生状況：多発生　　調　査：10月11日

カキ角斑落葉病防除効果



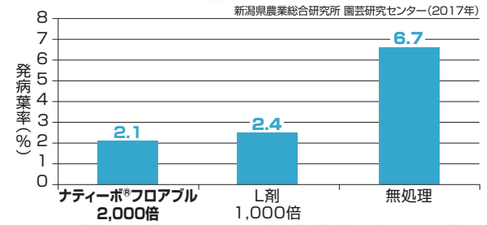
品　種：平核無　　散　布：6月6日、20日、7月6日
発生状況：多発生　　調　査：9月13日

カキ炭疽病防除効果



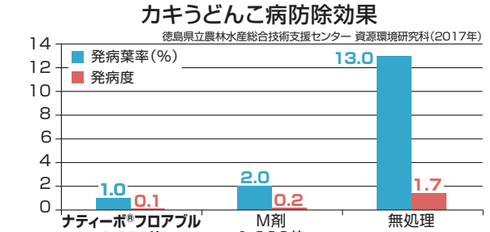
品　種：富有　　散　布：8月30日、9月6日、13日
発生状況：中発生　　調　査：10月13日

カキ灰色かび病防除効果



品　種：平核無　　接　種：5月16日（イチゴ灌病果を設置）　　調　査：7月2日
発生状況：少発生(接種)　　散　布：5月12日、22日、31日、6月9日、23日

カキうどんこ病防除効果



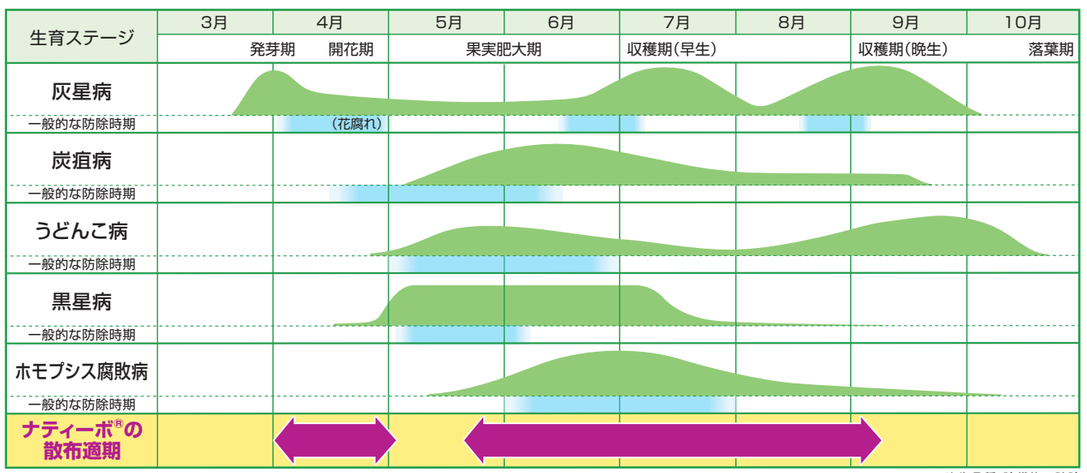
品　種：富有　　散　布：4月27日、6月5日、19日、8月8日
発生状況：少発生　　調　査：9月21日

ナティーボ®フロアブルは、かきの各病害に対して、対照薬剤と同等以上の高い効果を示しました。

もも病害の発生消長と上手な使い方

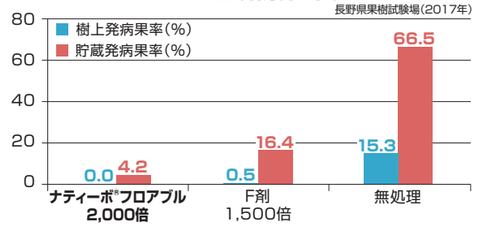
開花期も収穫前もナティーボ®フロアブルはしっかり発病を抑えます。

- 浸透移行性に優れるナティーボ®フロアブルは、開花期の防除に最適です。
- モモ灰星病の主な防除時期は、開花期と収穫期前です。
- ホモプシス腐敗病には梅雨期から収穫期の散布が効果的です。
- ナティーボ®フロアブルは、収穫前日まで使用可能です。収穫前の防除は高品質な収穫物を市場に届けるために重要です。



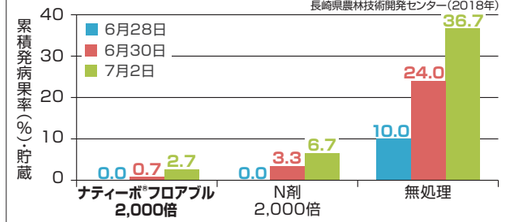
※晩生品種：除袋後の防除

モモ灰星病防除効果



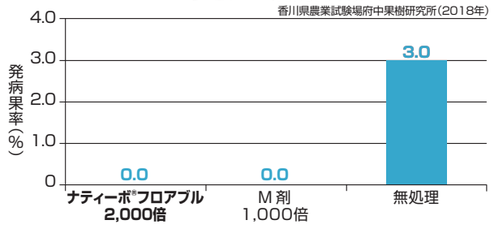
品　種：川中島白桃　　散　布：7月27日、8月4日、15日
発生状況：中発生(樹上)、多発生(貯蔵、接種)　　調　査：8月20～24日(樹上)、9月1日(貯蔵)

モモ炭疽病防除効果



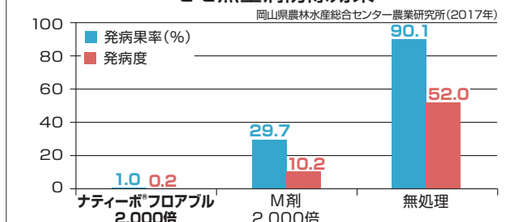
品　種：日川白鳳　　散　布：6月1日、8日、18日
発生状況：中発生　　調　査：6月28日、30日、7月2日

モモうどんこ病防除効果



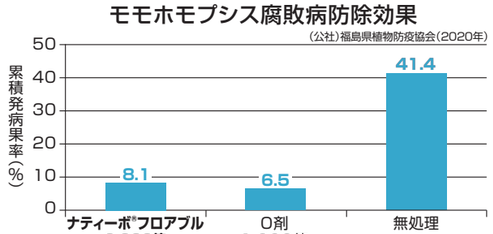
品　種：日川白鳳、橋場白鳳　　散　布：4月11日(開花期)、25日、5月6日
発生状況：少発生　　調　査：5月15日

モモ黒星病防除効果



品　種：白鳳　　散　布：5月12日、22日、6月1日
発生状況：甚発生　　調　査：7月10日、11日

モモホモプシス腐敗病防除効果



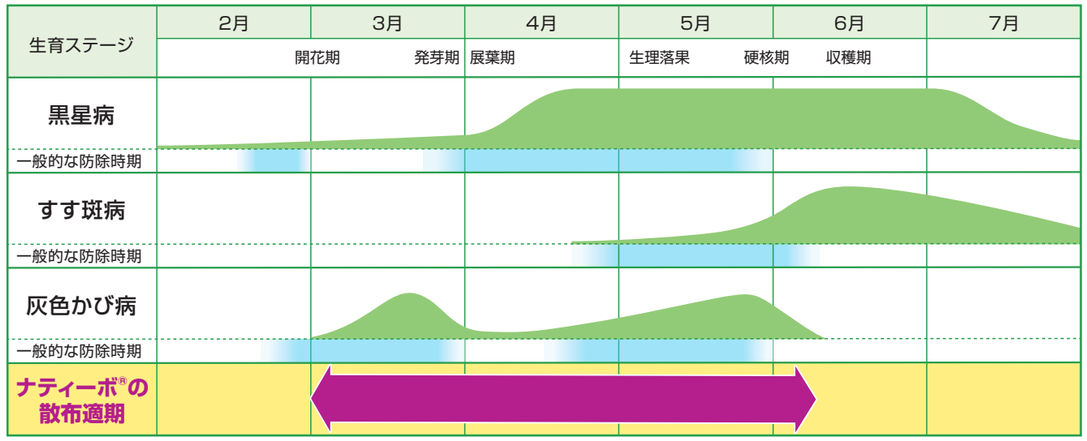
品　種：あかつき　　散　布：6月25日、7月3日、13日
発生状況：多発生　　調　査：7月27日(収穫時、無発病)、8月1日、3日、5日(貯蔵)

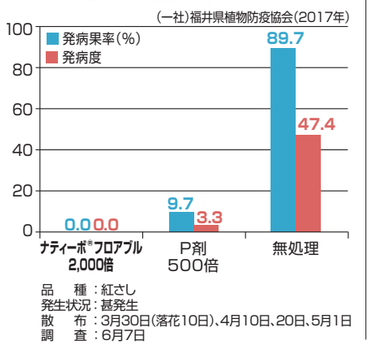
ナティーボ®フロアブルは、ももの各病害に対して、対照薬剤と同等以上の高い効果を示しました。

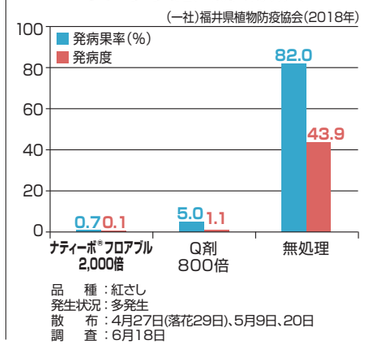
うめ病害の発生消長と上手な使い方

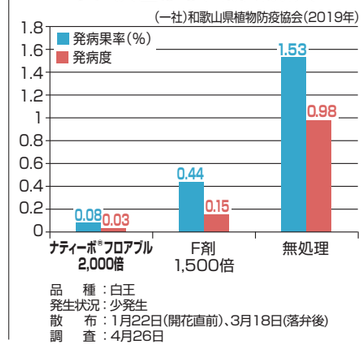
開花期も収穫前日もナティーボ®フロアブルなら防除可能です。

- 灰色かび病は、開花期の防除が効果的です。
- 黒星病防除には、4月下旬から5月中旬までの使用がお勧めです。
- ナティーボ®フロアブルは、ウメすす斑病に登録のある数少ない薬剤です。5月初旬から6月上旬が防除適期です。
- 耐雨性が高く、汚れの心配の少ない薬剤です。収穫期近くの追加防除にも安心して使用できます。









品種安全性事例

みかん	青島温州、石地、上野早生、愛媛中生、大津4号、興津早生、かごしま早生、北原早生、崎久保早生、させぼ温州、田口早生、豊福早生、南柑4号、南柑20号、日南1号、日南早生、はつひめ、古田早生、宮川早生、ゆら早生
かんきつ（みかんを除く）	今津ポンカン、愛媛果試第28号（紅まどんな）、かぼす、河内晩柑、川野夏だいだい、甘平、清見（きよみ）、湘南ゴールド、不知火、すだち、スルガエレガント、せとか、大将季、土佐文旦、なつだいだい、南津海、八朔、はるか、肥の豊、日向夏、ポンカン、宮内伊予柑、ユーレカ、ゆず、麗紅
かき	会津身不知、愛宕、西条、太秋、刀根早生、平核無、富有、松本早生富有
もも	あかつき、あかつきゴールド、川中島白桃、グレートジャンボあかつき、つきあかり、なつっこ、白鳳、橋場白鳳、日川白鳳、まどか、早生白鳳
うめ	甲州小梅、白加賀、南高、白王、紅さし

（五十音順）

上記の品種は、ナティーボ®フロアブルの使用によって薬害が認められなかった事例です。なお、気象条件、栽培条件、生育ステージなどにより異なる結果が得られることも予想されます。上記事例は使用の安全性を保証するものではなく、あくまでも参考事例としてお取扱い下さい。

BAYER

ナティーボ® フロアブル

混用事例

殺虫剤	かんきつ	かき	もも	うめ
アークリン水和剤		●		
アーデント水和剤			●	
アーデントフロアブル		●		
アクタラ顆粒水溶剤	●	●		
アグリメック乳剤	●			
アグロスリン水和剤		●		
アドマイヤーフロアブル	●			
アドマイヤー顆粒水和剤	●		●	●
アドマイヤー水和剤			●	●
アドマイヤープラスフロアブル	●			
アプロードエースフロアブル	●			
アプロード水和剤		●		
アルバリン顆粒水溶剤	●	●		
エクシレルSE	●			
オマイト水和剤	●			
オリオン水和剤40	●	●		●
オルトラン水和剤		●		
カスケード乳剤	●			
カネマイトフロアブル	●			
キックオフ顆粒水和剤		●		
キラップフロアブル	●*1	●		
コテツフロアブル	●			
コルト顆粒水和剤	●	●		
コロマイト水和剤	●			
サイアノックス水和剤			●	
サムコルフロアブル		●	●	
サンマイト水和剤	●			
スカウトフロアブル		●		
スタークル顆粒水溶剤	●	●	●	
スターマイトフロアブル	●			
スピノエースフロアブル	●			
スプラサイド水和剤		●		●
スミチオン乳剤	●*1			
スミチオン水和剤40		●		
ダイアジノン水和剤34			●	
ダニエモンフロアブル	●			
ダニゲッターフロアブル	●			
ダニコングフロアブル	●			
ダニサラバフロアブル	●			
ダニトロンフロアアブル		●		
ダブルフェースフロアブル	●			
ダントツ水溶剤	●	●		
テルスター水和剤	●	●		
テルスターフロアブル	●			
トクチオン水和剤		●		
トランスフォームフロアブル	●			
ハーベストオイル	●*2			
ハチハチフロアブル	●			
パノコン乳剤	●			
バリアード顆粒水和剤			●	●
フェニックスフロアブル		●		●
マイトコーネフロアブル				●

殺虫剤	かんきつ	かき	もも	うめ
マッチ乳剤	●			
モスピランSL液剤	●			
モスピラン顆粒水溶剤	●	●	●	●
モベントフロアブル	●	●		●
ロディー乳剤	●			

殺菌剤	かんきつ	かき	もも	うめ
Zボルドー				●
アリエッティ水和剤　※	●			
イオウフロアブル	●			
エムダイファー水和剤	●			
カスミン液剤				●
クミガードSC	●			
コサイド3000	●			
サルファーゾル	●			
スターナ水和剤			●	
トップジンM水和剤	●			
ベフトップジンフロアブル	●			
ベフラン液剤25	●			
ベンレート水和剤	●			
マイコシールド水和剤			●	●
ライメイフロアブル	●			
ランマンフロアブル	●			
レーバスフロアブル	●			

[記号の説明]

- ●：混用して問題なかった。
- ◎：使用直前の混用なら問題なかった。
- ○：混用で凝集するが、撹拌すれば散布に問題なかった。
- △：物理性、効果低下等の点で問題がある。
- ▲：薬害の点で問題がある。
- ×：混用できない。
- ー：混用の意味がないか、機会がない。
- 空欄：表記するに足りる知見や経験に乏しい。

*1：着色期の散布により果実に薬斑を生じる場合あり。
*2：油浸斑を生じる場合があるが、徐々に回復する。
※　：ナティーボ®フロアブルを最初に希釈してからアリエッティ水和剤を加えて下さい。逆順で希釈、混用すると沈殿を生じます。

上記の薬剤（殺虫剤、殺菌剤）は、ナティーボ®フロアブルとの混用によって薬害が認められなかった組み合わせです。なお、気象条件、栽培条件、生育ステージ、品種などにより異なる結果が得られることも予想されます。上記事例は使用の安全性を保証するものではなく、あくまでも参考事例としてお取扱い下さい。

新農薬実用化試験 結果概評

1.かんきつの病害

①黒点病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2011	かんきつ(日南1号) 19年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	和歌山植(果)	露地	甚	×1,500 7ℓ/樹	散布	4	5/30、6/24、7/26、8/29〈9/30〉	B剤 ×600	D	C	C	-
2011	かんきつ(愛媛中生) 17年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	多	×1,500 9ℓ/樹	散布	4	5/31、6/22、7/22、9/1〈10/24〉	B剤 ×600	C	C	C	-
2011	かんきつ(興津早生温州) 18年生	黒点病 〈発病度〉	佐賀上場	露地	中	×1,500 8ℓ/樹	散布	3	6/14、7/8、9/1、〈11/7〉	B剤 ×600	D	C	C	-
2011	かんきつ(させぼ温州) 11年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	長崎果	露地	多	×1,500 4~5ℓ/樹	散布	4	5/31、6/22、7/13、8/8〈10/31:着色期〉	B剤 ×400	B	A	A	-
2012	かんきつ(興津早生) 21年生	黒点病 〈果実発病度〉	山口柑	露地	多	×1,500 10ℓ/樹	散布	4	6/6、20、7/9、8/24〈10/26〉	B剤 ×600	C	B	B	-
2012	かんきつ(愛媛中生) 18年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	中	×1,500 8ℓ/樹	散布	4	6/1、26、7/23、8/20〈10/25〉	B剤 ×600	C	B	B	-
2012	かんきつ(させぼ温州) 12年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	長崎果	露地	中 (接種)	×1,500 8ℓ/樹	散布	4	6/7、26、7/23、8/20〈10/16〉	B剤 ×600	B	A	A	-
2011	かんきつ(上野早生) 21年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	佐賀果	露地	多	×2,000 8ℓ/樹	散布	3	6/21、7/8、8/10〈10/17〉	B剤 ×600	D	D	D	-
2011	かんきつ(宮川早生) 5年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	鹿児島果	露地	中	×2,000 約6ℓ/樹	散布	3	6/3、22、7/11〈10/3〉	B剤 ×600	C	C	C	-
2020	かんきつ(宮川早生) 14年生	黒点病 〈発病度〉	三重紀南	露地	甚	×2,000 8ℓ/樹	散布	4	5/21、6/23、7/16、8/14〈9/28〉	B剤 ×600	D	C	C	-
2020	かんきつ(宮川早生) 17年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	中	×2,000 7ℓ/樹	散布	4	5/28、6/24、7/20、8/20〈10/11〉	B剤 ×600	C	C	C	-
2020	かんきつ(かごしま早生) 5年生	黒点病 〈発病果率、発病度〉	鹿児島	露地	少 (接種)	×2,000 8ℓ/樹	散布	4	4/27、5/28、6/24、7/13〈9/3〉	B剤 ×600	B	B	B	-

②炭疽病(さび果)

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	かんきつ(湘南ゴールド) 10年生	炭疽病(さび果) 〈発病果率、発病度〉	神奈川 根府川	露地	多	×1,500 4ℓ/樹	散布	3	9/29、10/11、18	ー	-	C	C	-
2019	かんきつ(湘南ゴールド) 11年生	炭疽病(さび果) 〈発病果率、発病度〉	神奈川 根府川	露地	中	×1,500 4ℓ/樹	散布	2	2018/9/27、10/10 〈2019/3/19(2回目処理160日後)〉	B剤 ×600	B	B	B	-
2019	かんきつ(河内晩柑) 8年生	炭疽病(さび果) 〈発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	多	×1,500 6ℓ/樹	散布	3	2018/8/17、9/11、10/15 〈2019/4/4〉	G剤 ×2,000	B	C	C	-

③そうか病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2011	かんきつ(早生温州) 30年生	そうか病 〈発病葉率、発病果率、発病度〉	佐賀果	露地	中	×1,500 7ℓ/樹	散布	2	4/18、5/24 〈7/8〉	E剤 ×1,000	C	B	B	-
2011	かんきつ(興津早生) 19年生	そうか病 〈発病葉率、発病果率、発病度〉	熊本果	露地	多	×1,500 10ℓ/本	散布	2	4/6、5/18 葉〈7/5〉果実〈7/13〉	E剤 ×1,000	B	A	A	-
2011	かんきつ(大津四号) 25年生	そうか病 〈新梢及び果実の防除価〉	大分果国	露地	中	×1,500 十分量	散布	3	4/7(発芽)、5/25(落弁後)、6/29(幼果)〈7/26(葉、果実)〉	E剤 ×1,000	C	B	B	-
2012	かんきつ(早生温州) 31年生	そうか病 〈発病葉率、発病果率、発病度〉	佐賀果	露地	葉:中 果:多	×1,500 8ℓ/樹	散布	2	4/12、5/18 〈7/11〉	E剤 ×1,000	B	A	A	-
2012	かんきつ(大津四号) 26年生	そうか病 〈新梢及び果実の防除価〉	大分果国	露地	葉:中 果:中	×1,500 20ℓ/本	散布	3	4/23(発芽前)、5/28(落弁期)、7/10(幼果期)〈8/9(葉、果実)〉	E剤 ×1,000	B	A	A	-
2012	かんきつ(宮川早生) 6年生	そうか病 〈発病葉率、発病果率、発病度〉	鹿児島果	露地	中	×1,500	散布	2	3/26、5/1 〈7/4〉	E剤 ×1,000	B	A	A	-
2011	かんきつ(早生温州) 30年生	そうか病 〈発病葉率、発病果率、発病度〉	佐賀果	露地	中	×2,000 7ℓ/樹	散布	2	4/18、5/24 〈7/8〉	E剤 ×1,000	C	A	A	-
2014	かんきつ(宮川早生) 11年生	そうか病 〈発病葉率、発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	葉:少 果実:多	×2,000 6ℓ/樹	散布	2	4/17(平均新梢長5㎜) 5/29(落弁期) 〈葉:6/26〉〈果実:7/18〉	E剤 ×1,000	B	A	A	-
2014	かんきつ(上野早生) 6年生	そうか病 〈発病葉率、発病果率、発病度〉	佐賀果	露地	春葉:多 果実:甚	×2,000 7ℓ/樹	散布	3	4/8、5/23、6/23 〈7/17〉	E剤 ×1,000	B	A	B	-
2014	かんきつ(大津四号) 28年生	そうか病 〈新梢及び果実の防除価〉	大分果国	露地	葉:中 果実:甚	×2,000 15ℓ/樹	散布	3	4/8、5/30、6/30 〈7/31(葉、果実)〉	E剤 ×1,000	B	A	A	-

④灰色かび病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2011	かんきつ(青島温州) 6年生	灰色かび病 〈発病花弁率、発病果率、果実発病度〉	静岡果	露地	中	×1,500 1ℓ/樹	散布	1	5/16 〈花弁:5/23、果実:6/7〉	F剤 ×1,500	B	B	B	-
2011	かんきつ(南柑20号) 31年生	灰色かび病 〈発病花弁率、発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	花:多 果:中	×1,500 16ℓ/樹	散布	1	5/31 〈6/10、6/30〉	F剤 ×1,500	C	C	C	-
2011	かんきつ(日向夏) 7年生	灰色かび病(花、果実) 〈発病花弁率、発病果率〉	高知果	施設	少	×1,500 3ℓ/樹	散布	1	5/11(落弁期) 〈5/24、6/7〉	F剤 (1,500倍-3ℓ/樹)	B	A	B	-
2012	かんきつ(宮川早生) 6年生	灰色かび病 〈発病花弁率、発病果率、果実発病度〉	静岡果	露地	中	×1,500 1ℓ/樹	散布	1	5/14 〈花弁:5/21、果実:6/13〉	F剤 ×1,500	C	B	B	-
2012	かんきつ(日南1号) 20年生	灰色かび病(花弁、果実) 〈発病花率、発病果率、発病度(果実)〉	和歌山果	露地	花:少 果:中	×1,500 7ℓ/樹	散布	1	5/16 〈花弁:5/22、果実:6/6〉	F剤 ×1,500	B	B	B	-
2012	かんきつ(南柑20号) 32年生	灰色かび病 〈発病花弁率、発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	花:少 果:中	×1,500 17ℓ/樹	散布	1	5/28 〈6/4、6/26〉	F剤 ×1,500	C	C	C	-
2012	かんきつ(宮川早生) 6年生	灰色かび病 〈発病度〉	長崎果	施設	少 (接種)	×1,500	散布	1	2013/3/19 〈4/24〉	F剤 ×1,500	B	A	B	-
2014	かんきつ(青島温州) 鉢植え6年生	灰色かび病 〈発病花弁率、発病果率、果実発病度〉	静岡果	露地	少	×2,000 1ℓ/樹	散布	2	5/9、19 〈花弁:5/28、果実:6/10〉	F剤 ×1,500	B	A	A	-
2014	かんきつ(興津早生) 19年生	灰色かび病(花弁、果実) 〈発病花率、発病果率、発病度(果実)〉	和歌山果	露地	中	×2,000 6ℓ/樹	散布	1	5/14 〈花:5/22、果実:6/2〉	F剤 ×1,500	A	A	A	-
2014	かんきつ(興津早生) 21年生	灰色かび病 〈発病果率、発病度〉	広島果	露地	少	×2,000 8ℓ/樹	散布	1	5/16 〈6/13(散布28日後)〉	F剤 ×1,500	B	B	B	-
2014	かんきつ(興津早生) 21年生	灰色かび病 〈発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	花弁:少 果実:中	×2,000 7ℓ/樹	散布	1	5/23(満開5/21) 〈花弁:5/30、果実:6/25、26〉	F剤 ×1,500	B	B	B	-

⑤貯蔵病害【緑かび病】、貯蔵病害【青かび病】

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2011	かんきつ(青島温州) 20年生	貯蔵病害(緑かび病) 〈累積発病果率〉	静岡果	露地	(長期) 緑:極少 (付傷) 緑:中	×1,500 50ℓ/3樹	散布	1	11/28 〈2012/3/21〉	D剤 ×2,000	緑:B	B	B	-
2011	かんきつ(興津早生) 44年生	貯蔵病害(緑かび病) 〈累積発病果率〉	広島果	露地	(長期) 緑:中 (付傷) 緑:中	×1,500	散布	1	11/9(収穫15日前) 〈長期貯蔵試験:2012/3/8〉 〈付傷試験:2012/2/23〉	D剤 ×2,000	緑:B	A	A	-
2011	かんきつ(古田早生) 10年生	貯蔵病害(緑かび病)	大分果国	露地	緑:中 青:無	×1,500	散布	1	11/25 〈2012/3/21(果実)〉	D剤 ×2,000	緑:B	A	B	-
2011	かんきつ(上野早生) 22年生	貯蔵病害(緑かび病) 〈腐敗果率〉	佐賀果	露地	緑:中 青:極少	×1,500 8ℓ/樹	散布	1	10/10 〈11/26〉	C剤 ×1,500	緑:B	B	B	-
2012	かんきつ(青島温州) 21年生	貯蔵病害(緑かび病) 〈累積発病果率〉	静岡果	露地	緑:多 青:多	×1,500 40ℓ/3樹	散布	1	11/27 〈2013/4/3〉	D剤 ×2,000	緑:C	C	C	-
2012	かんきつ(青島温州) 18年生	貯蔵病害(緑かび病) 〈累積発病果率〉	愛媛果	露地	緑:少 青:中	×1,500 6~7ℓ/樹	散布	1	12/7 〈2013/2/8〉	D剤 ×2,000	緑:C	C	C	-
2011	かんきつ(青島温州) 20年生	貯蔵病害(青かび病) 〈累積発病果率〉	静岡果	露地	青:少 緑:中	×1,500 50ℓ/3樹	散布	1	11/28	D剤 ×2,000	C	B	B	-
2013	かんきつ(南柑4号) 51年生	貯蔵病害(青かび病) 〈発病果率〉	山口柑	露地	少	×1,500 10ℓ/樹	散布	1	12/10(収穫6日前) 〈2014/1/6、2/25、4/30〉	D剤 ×2,000	B	A	B	-
2013	かんきつ(宮川早生) 19年生	貯蔵病害(青かび病) 〈発病果率〉	愛媛果	露地	少	×1,500 10ℓ/樹	散布	1	10/28〈11/22、12/6、20、2014/1/6〉	D剤 ×2,000	A	C	C	-

⑥汚れ果症

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2020	かんきつ(不知火、肥の豊) 19年生	汚れ果症 〈発病果率、果実発病度〉	熊本果	施設	中	×1,500 30ℓ/樹	散布	3	6/12、7/9、8/25 〈9/28〉	ー	-	C	C	-
2020	かんきつ(大将季) 5年生	汚れ果症 〈発病果率、発病度〉	鹿児島	施設	多	×1,500 10ℓ/樹	散布	3	5/26、6/26、7/22 〈2021.1/6〉	B剤 ×600	D	C	C*	-
2021	かんきつ(不知火) 22年生	汚れ果症 〈発病果率、発病度〉	熊本果	施設	少	×1,500 15ℓ/樹	散布	3	7/12、8/20、9/13 〈10/12〉	ー	-	C	C*	-

*：難防除病害であること考慮して判定した

ナティーボ® フロアブル

2.かきの病害

①落葉病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	かき (会津身不知) 17年生	落葉病 〈発病葉率、発病度〉	福島会津	露地	少	×2,000 600ℓ/10a	散布	3	6/13、27、7/10 〈10/3〉	R剤 ×1,000	A	A	B	-
2017	かき (刀根早生) 30年生	落葉病(円星) 〈発病葉率、発病度〉	福井植	露地	多	×2,000 400ℓ/10a	散布	4	5/19, 6/3, 22, 7/13 〈10/11 最終散布後〉	J剤 ×500	B	A	A	-
2017	かき (平核無) 29年生	落葉病 〈発病葉率、発病度〉	奈良植	露地	多	×2,000 13ℓ/樹	散布	3	6/6、20、7/6 〈9/13〉	K剤 ×800	A	A	A	-
2017	かき (愛宕) 24年生	落葉病 〈発病葉率、発病度〉	徳島	露地	中	×2,000 10ℓ/樹	散布	3	6/5、19、7/3 〈9/5〉	J剤 ×500	A	A	A	-

②炭疽病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	かき (富有) 54年生	炭疽病 〈発病果率、発病度〉	滋賀花果	露地	少	×2,000 10ℓ/樹 ※5/26のみ 7ℓ/樹	散布	5	5/26、6/22、7/20、 8/8、9/4〈10/5〉	B剤 ×400	B	A	B	-
2017	かき (富有) 51年生	炭疽病 〈発病果率、発病度〉	奈良植	露地	中 (接種)	×2,000 13ℓ/樹	散布	3	8/30、9/6、13 〈10/13〉	B剤 ×400	A	A	A	-
2017	かき (富有) 75年生	炭疽病 〈発病果率、発病度〉	香川府中	露地	中	×2,000 30ℓ/樹	散布	6	5/18、6/8、7/3、14、 8/16、9/13〈10/11〉	B剤 ×400	B	A	A	-
2017	かき (愛宕) 35年生	炭疽病 〈発病果率、発病度〉	愛媛果	露地	中 (接種)	×2,000 8ℓ/樹	散布	3	8/17、9/4、13 〈9/24〉	B剤 ×400	D	C	C	-

③灰色かび病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	かき (平核無) 38年生	灰色かび病 〈発病葉率〉	新潟園	露地	少 (接種)	×2,000 320~400ℓ /10a	散布	5	5/12、22、31、 6/9、23〈7/2〉	L剤 ×1,000	B	C	C	-
2018	かき (平核無) 53年生	灰色かび病 〈発病葉率、発病度〉	新潟佐渡	露地	少 (接種)	×2,000 十分量	散布	6	5/8、16、26、 6/5、15、25〈7/19〉	L剤 ×1,000	B	B	B	-
2018	かき (西条) 41年生	灰色かび病 〈発病葉率〉	島根	露地	中	×2,000 250ℓ/10a	散布	3	5/1、11、22 〈5/29〉	L剤 ×1,000	C	C	C	-

④うどんこ病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	かき (富有) 樹齢:24年生	うどんこ病 〈発病葉率、発病度〉	徳島	露地	少	×2,000 10ℓ/樹	散布	4	4/27、6/5、19、8/8 〈9/21〉	M剤 ×1,000	B	A	B	-
2017	かき (富有) 35年生	うどんこ病 〈発病葉率、発病度〉	愛媛果	露地	中	×2,000 9~10ℓ /樹	散布	4	5/11、6/1、7/10、 8/24〈9/28〉	M剤 ×1,000	B	B	B	-
2018	かき (会津身不知) 18年生	うどんこ病 〈発病葉率、発病度〉	福島会津	露地	無	×2,000 10ℓ/樹	散布	4	6/13、29、7/12、 8/22〈9/19〉	R剤 ×1,000	?	?	?	-
2018	かき (富有) 19年生	うどんこ病 〈発病葉率、発病度〉	岐阜	露地	少	×2,000 350ℓ/10a	散布	5	5/1、29、6/26、 8/3、27〈10/10〉	K剤 ×800	B	B	B	-
2018	かき (富有) 20年生	うどんこ病 〈発病葉率、発病度〉	和歌山果 かき・もも	露地	極少	×2,000 10ℓ/樹	散布	4	6/7、7/2、8/20、9/14 〈10/30〉	M剤 ×1,000	?	?	?	-

3.ももの病害

①灰星病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	もも (川中島白桃) 11~13年生	灰星病 〈発病果率〉	秋田果 鹿角	露地	少	×2,000 10ℓ/樹	散布	3	8/3、13、23 〈9/9〉	F剤 ×1,500	B	A	A	-
2017	もも (グレートジャンボあかつき) 11年生	灰星病 〈発病果率〉	シンテック (茨城)	露地	樹上:少 貯蔵:多	×2,000 500ℓ/10a	散布	3	7/7、12、19 〈7/19、28、8/4〉	F剤 ×1,500	A	B	B	-
2017	もも (川中島白桃) 3年生、18年生	灰星病 〈発病果率〉	長野果	露地	樹上:中 貯蔵:多 (接種)	×2,000 5~20ℓ /樹	散布	3	7/27、8/4、15 (樹上8/20~24、貯蔵8/24~9/1)	F剤 ×1,500	A	A	A	-
2017	もも (日川白鳳) 14年生	灰星病 〈発病果率〉	油日 (滋賀)	露地	中	×2,000 300ℓ/10a	散布	3	6/23、30、7/7 〈7/24〉	F剤 ×1,500	C	B	B	-
2017	もも (つきあかり) 17年生	灰星病 〈発病果率〉	長崎果	露地	樹上:極少 貯蔵:少	×2,000 15ℓ/樹	散布	3	5/26、6/5、15 〈6/29〉	F剤 ×1,500	B	B	B	-

②炭疽病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	もも (日川白鳳) 14年生	炭疽病 〈発病果率〉	長崎果	露地	少	×2,000 15ℓ/樹	散布	3	5/26、6/5、15 〈6/29〉	N剤 ×2,000	B	A	A	-
2018	もも (早生白鳳) 17年生	炭疽病 〈発病果率〉	日植防山梨	露地	樹上:少 (接種) 貯蔵:中	×2,000 4ℓ/樹	散布	4	5/31、6/12、21、7/3 〈7/17〉	N剤 ×2,000	B	C	C	-
2018	もも (日川白鳳) 14年生	炭疽病 〈累積発病果率〉	長崎果	露地	中	×2,000 13ℓ/樹	散布	3	6/1、8、18 〈7/2〉	N剤 ×2,000	B	A	A	-

③うどんこ病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	もも (日川白鳳) 8年生樹	うどんこ病 〈発病果率〉	日植防山梨	露地	少	×2,000 5ℓ/樹	散布	3	4/28、5/8、18 〈5/26〉	S剤 ×2,000	B	B	B	-
2017	もも (日川白鳳) 10年生、6年生	うどんこ病 〈発病果率〉	香川府中	露地	少	×2,000 10ℓ/樹	散布	3	4/15、29、5/18 〈5/30〉	M剤 ×1,000	B	B	B	-
2018	もも (日川白鳳) 9年生樹	うどんこ病 〈発病果率〉	日植防山梨	露地	少	×2,000 約5ℓ/樹	散布	3	5/1、11、21 〈5/30~31〉	S剤 ×2,000	B	B	B	-
2018	もも (日川白鳳) 7年生 (橋場白鳳) 20年生	うどんこ病 〈発病果率〉	香川府中	露地	少	×2,000 10ℓ/樹	散布	5	4/11、25、5/6 〈5/15〉	M剤 ×1,000	B	A	A	-

④黒星病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	もも (白鳳) 9~18年生	黒星病 〈発病果率、発病度〉	岡山	露地	甚	×2,000 10ℓ/樹	散布	3	5/12、22、6/1 〈7/10、11〉	M剤 ×2,000	A	A	A	-
2018	もも (白鳳) 10~19年生	黒星病 〈発病果率、発病度〉	岡山	露地	中	×2,000 10ℓ/樹	散布	3	5/16、28、6/7 〈6/28〉	M剤 ×2,000	B	A	A	-
2019	もも (あかつき) 6~7年生	黒星病 〈発病果率、発病度〉	福岡豊前	露地	中	×2,000 400ℓ/10a	散布	3	6/5、20、7/1 〈7/12〉	M剤 ×2,000	A	A	A	-

⑤ホモプシス腐敗病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2018	もも (あかつき) 5年生	ホモプシス腐敗病 〈発病果率〉	福岡豊前	露地	樹上:極少 貯蔵:少	×2,000 400ℓ/10a	散布	3	6/4、15、28 〈7/19〉	O剤 ×1,000	C	C	C**	-
2019	もも (あかつき) 6~7年生	ホモプシス腐敗病 〈発病果率〉	福岡豊前	露地	少	×2,000 400ℓ/10a	散布	3	6/5、20、7/1 〈7/19〉	O剤 ×1,000	D	D	D	-
2020	もも (あかつき) 22年生	ホモプシス腐敗病 〈発病果率〉	福島植	露地	多	×2,000 10ℓ/区	散布	3	6/25、7/3、13 〈8/5〉	O剤 ×1,000	B	B	B	-
2021	もも (あかつき) 7~9年生	ホモプシス腐敗病 〈発病果率、累積発病果率〉	福岡豊前	露地	樹上:無 貯蔵:極少	×2,000 20ℓ/樹	散布	3	6/2、14、25 〈7/6、9、11、13〉	O剤 ×1,000	?	?	?	-
2022	もも (まどか) 15年生	ホモプシス腐敗病 〈発病果率〉	J-pec (福島)	露地	多	×2,000 300ℓ/10a	散布	4	6/28、7/8、18、28 〈8/17〉	O剤 ×1,000	B	C	C	-

**：対照の効果がやや低い。6/29 ~ 7/9 までに 677mm の降雨が影響している可能性あり。

ナティーボ® フロアブル

4.うめの病害

①黒星病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2017	うめ (紅さし) 30年生	黒星病 〈発病度〉	福井植	露地	甚	×2,000 300ℓ/10a	散布	4	3/30、4/10、20、5/1 〈6/7：最終散布37日後〉	P剤 ×500	A	A	A	-
2017	うめ (南高) 9年生	黒星病 〈発病度〉	奈良植	露地	甚	×2,000 100ℓ/10a	散布	4	4/5、19、5/2、16 〈6/21〉	P剤 ×500	A	A	A	-
2018	うめ (紅さし) 31年生	黒星病 〈発病果率、発病度〉	福井植	露地	甚	×2,000 300ℓ/10a	散布	4	4/8、17、27、5/9 〈6/5：最終散布27日後〉	P剤 ×500	B	A	A	-
2018	うめ (南高) 10年生	黒星病 〈発病果率、発病度〉	奈良植	露地	甚	×2,000 200ℓ/10a	散布	4	3/26、4/5、19、5/1 〈6/13〉	P剤 ×500	A	A	A	-

②すす斑病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2018	うめ (紅さし) 31年生	すす斑病 〈発病果率、発病度〉	福井植	露地	多	×2,000 300ℓ/10a	散布	3	4/27、5/9、20 〈6/18〉	Q剤 ×800	B	A	A	-
2019	うめ (紅さし) 32年生	すす斑病 〈発病果率、発病度〉	福井植	露地	中	×2,000 300ℓ/10a	散布	3	4/18、5/4、17 〈6/21(第3回散布35日後)〉	Q剤 ×800	B	A	A	-
2019	うめ (南高) 18年生	すす斑病 〈発病果率、発病度〉	和歌山果うめ	露地	中	×2,000 10~15ℓ/樹	散布	3	4/22、5/8、21 〈6/18〉	Q剤 ×800	B	A	A	-

③灰色かび病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名(菌名、種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名 (処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉		対対照	対無処理	判定	薬害
2018	うめ (甲州小梅) 27年生	灰色かび病 〈発病果率〉	日植防 山梨	露地	少 (接種)	×2,000 3ℓ/区	散布	1	3/19 〈5/10〉	F剤 ×1,500	C	B	B	-
2019	うめ (甲州小梅) 48年生	灰色かび病 〈発病果率〉	日植防 山梨	露地	少 (接種)	×2,000 約3ℓ/区	散布	1	3/15 〈5/8~9〉	F剤 ×1,500	B	B	B	-
2019	うめ (白王) 9~18年生	灰色かび病 〈発病果率、発病度〉	和歌山植 (うめ)	露地	少	×2,000 10~15ℓ/樹	散布	2	1/22、3/18 〈4/26〉	F剤 ×1,500	A	A	B	-
2020	うめ (白王) 10~19年生	灰色かび病 〈発病果率、発病度〉	和歌山植 (うめ)	露地	少	×2,000 10~15ℓ/樹	散布	2	3/6、25 〈5/12〉	F剤 ×1,500	B	B	B	-
2021	うめ (甲州小梅) 50年生	灰色かび病 〈発病果率、発病度〉	日植防 山梨	露地	少 (接種)	×2,000 5ℓ/樹	散布	1	3/10 〈4/27〉	F剤 ×1,500	B	C	C	-
2021	うめ (白王) 11~20年生	灰色かび病 〈発病果率、発病度〉	和歌山果うめ	露地	少	×2,000 10ℓ/樹	散布	2	1/21、3/11 〈4/20〉	F剤 ×1,500	C	B	B	-

memo